

## 路線バス（乗合バス）の上限運賃改定の申請について

神奈川中央交通株式会社（本社：平塚市、代表者：取締役社長 堀 康紀）では、2023年2月17日（金）、国土交通大臣宛てに乗合バス運賃の上限運賃改定認可申請を行いました。

申請理由および申請概要等は次のとおりです。お客様にはご負担をおかけしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 1. 申請理由

弊社は1997年4月1日実施の前回改定（消費税率引上げによるものを除く）から、約26年間、安全運行を最優先させつつ、路線網の拡充や利用者利便策の充実に努め、お客様の大切な交通手段を確保してまいりました。しかしながら、この間、社会環境は少子高齢化や人口減少、マイカー等との競合などバス利用者数の確保が非常に困難な状況が続き、さらに近年では、新型コロナウイルス感染症拡大による新たな生活様式の定着により移動需要自体が減少したため、収入面において、極めて厳しい事業運営となっております。

他方、バス運転士を中心とする人件費や燃料費は増加傾向であり、また、最優先事項である安全対策のための投資、定期的な車両代替・利便向上策・環境対策等のコストも同様に増加傾向となっており、収入面の苦境と併せて事業経営を圧迫してきております。

しかしながら、このような事業環境であっても、公共交通としての弊社バス事業を、今後も安全かつ安定的に継続していく必要があります。そのための施策の一つとして、今般、上限運賃の変更を申請いたしました。弊社といたしましては、引き続き経営努力に努めてまいり、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 2. 申請概要

- (1) 申請日 2023年 2月17日(金)  
(2) 運賃改定実施予定日 2023年 7月 1日(土)  
(3) 申請対象路線 弊社全路線（弊社横浜市均一運賃区間等を除く）  
(4) 上限運賃の平均改定率 28.15%

なお実施運賃に関しては上限運賃より低額な実施運賃といたします。

実際の平均改定率は18%程度を予定しております。

#### (5) 現行・申請運賃比較表

	現行運賃		申請上限運賃※1		実施運賃(予定)※2	
	現金	ICカード	現金	ICカード	現金	ICカード
初乗り運賃	180円	178円	230円	230円	210円	210円
同 定期券 (通勤1ヶ月)	7,950円		10,270円		9,380円	

※1 申請上限運賃は、事業の経営に必要な原価に応じて算出される、バス事業者が収受してもよいとされる運賃の上限額です。

※2 実施運賃は、認可が得られた上限運賃の範囲内で実施する、実際にお客様から収受する運賃額です。

#### (6) 主要区間の運賃

系統 番号	区 間 (主な経由地)	片道運賃				定期券(通勤1ヶ月)	
		現行運賃		実施運賃(予定)		現行	実施予定
		現金	IC	現金	IC		
戸 50	戸塚バスセンター～ドリームハイツ (原宿)	250円	242円	290円	290円	10,810円	12,950円
船 32	藤沢駅北口～大船駅西口 (渡内)	270円	263円	310円	310円	11,750円	13,840円
辻 26	辻堂駅北口～湘南台駅西口 (大庭隧道・駒寄・桐ヶ谷)	380円	377円	450円	450円	16,840円	20,100円
平 53	平塚駅北口～本厚木駅南口 (大神・旭町)	520円	514円	610円	610円	22,950円	27,240円
橋 01	橋本駅北口～三ヶ木 (久保沢・中野)	440円	440円	520円	520円	19,650円	23,220円

#### 3. 輸送人員及び収支状況（弊社横浜市均一運賃区間等を除く）

		輸送人員	収支状況
2021年度	実績年度	150百万人	△4,217百万円
2023年度	平年度推計 ※3	改定前	159百万人
		改定後	155百万人
			△985百万円

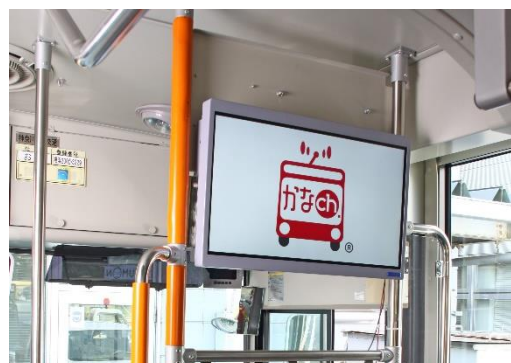
※3 2023年度平年度推計の収支状況は、事業の経営に必要な原価を計上した推計値です。

2023年度平年度推計(改定後)の輸送人員および収支状況は、申請上限運賃での推計値です。

#### 4. これまでの経営合理化状況及び今後の取り組み

弊社ではこれまでも、バス路線の子会社への管理委託を拡大し管理の細分化による輸送の効率化や事故防止など安全対策の向上を図ってまいりました。また、不採算路線の再編等による事業運営の合理化を図るとともに、利用実態に応じたダイヤ改正や車両代替期間延長による償却費削減、アイドリングストップによる燃料費削減等に努め、全国レベルにおいても低廉な賃率(※4)を維持し運賃を据え置いてまいりました。

他方、車内広告用のデジタルサイネージやバスボディへのラッピング広告掲出等による関連収入の確保にも努めてまいりました。



<車内広告用デジタルサイネージ>

今後も、上記施策を柔軟かつ機動的に実施しつつ、コロナ禍による生活様式の変化に対応した運行ダイヤの効率化、連節バスやデマンド交通の活用などによる輸送効率の向上、DX(デジタルトランスフォーメーション)による業務の効率化等に努めてまいります。

※4 運行コストに見合った1キロあたりの運賃



<連節バス>

## 5. 安全対策への取り組み

弊社では、経営合理化を推進しつつも、バス事業の最大の使命である安全輸送の為に施策に影響が出ないよう細心の注意を払い、今後も継続して安全対策に取り組んでまいります。

具体的には、自社営業所内に整備した教習コースにおいて専任の教官を配置し、運転技術の向上や安全教育の実施など人材の育成と事故防止教育の拡充を図っております。またバス車載器においても、ドライブレコーダーの新型機器への代替、ドライバー異常時対応システム(EDSS)搭載バス(※5)の導入など最新技術も取り入れつつ、引き続き積極的に投資を進めて安全対策に努めてまいります。



<秦野営業所教習コース>

※5 走行中の運転士に異常が発生した際、運転席もしくは車内の非常ブレーキスイッチを押すことで制動を開始し、速度を段階的に低下させて停止します。

## 6. サービス向上の取り組み

弊社ではサービス施策として1997年4月より土休日・夏休み期間等において小児運賃を一律現金50円とする制度や、2001年6月より割引率の高い高齢者専用の定期乗車券「かなちゃん手形」の発売を実施してまいりました。さらには、交通系ICカードの導入、金額式IC定期券やIC一日乗車券の発売など、サービス向上に努めてまいりました。

今後は、小児運賃一律50円の期間を拡大してICカード利用時には全日一律50円にするるとともに、通学定期券は運賃改定後においても現在の支払額に対し大きな負担増とならないよう割引率を引き上げるなど、子育て世代の応援に引き続き取り組んでまいります。また、「かなちゃん手形」についても、引き続き高齢者の移動支援として運賃を据え置く予定です。

さらには、ノンステップバスの導入促進やバスロケーションシステムの改良(※6)、MaaSアプリを活用したオフピーク時間帯の運賃割引チケットや近隣商業施設との連携による新たなサービス付加なども検討してまいります。また、お客様のニーズの変化を踏まえ、新路線の開設やICTを活用した新たなサービスの導入



<MaaSアプリを活用した運賃割引>

なども検討してまいります。

※6 バス停に貼付したQRコードを読み取ると、そのバス停のバス接近情報にアクセスできるシステム。

## 7. 今後の社会的課題への対応

今後の社会的課題である脱炭素化や労働力不足問題などにバス事業も正面から取り組む必要があります。弊社では今年度導入予定のEVバスや実証運行中の自動運転バス(※7)等の新技術導入の検討・投資を積極的に行い、これらの社会的課題への対応に取り組んでまいります。

※7 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおいて自動運転バス(レベル2)を実証運行中。



<自動運転バス>

(このリリースに関するお問い合わせ先)

神奈川中央交通(株) 運輸営業部乗合担当 TEL.0463-22-8833

営業時間 9:00~17:25(土曜・休日・祝日を除く)